

共通教育科目に学ぶ

大学に入ってから、卒業する上で必要な単位として、共通教育の授業をとることになった。当時は、専門分野ばかり勉強できるというわけではないのか、と少々拍子抜けしていたが、新たな環境で授業を受けるのはとてもわくわくした。

私が最も興味を持ったのは、共通教養（いわゆるパンキョー）第2分野の「人間の科学系」という分野である。この分野では心理学を中心に、人間に関する事柄を学んできた。この分野で複数履修することができたので、割と理解を深めることができたと思う。興味のあることに関する知識が増えていくのは、楽しいものだった。もし、共通教育という制度がなかったら、私はこの分野と全く無関係だったかもしれない。でも、

教育地域科学部 美術教育サブコース3年 木下 恵理

高校を出ただけでは、世の中のありとあらゆる学問のほんの一部しか知らないのは当然だ。高校までは「進学のための学習」がほとんどだったが、大学に入って自分で興味のある分野を選択し、学ぶことの楽しさを実感した。私は、共通教育は、大学生に新たな世界を広げてくれるものだと思う。もちろん強く魅力を感じた分野をさらに深く学ぶことも可能だ。まだ10～20代の私たちには、あらゆる可能性がある。

また、学生同士の交流も共通科目の賜物である。共通教育の授業は大学に入学して最初の年に最も多いが、入学して間もない時期はまだ人間関係が流動的だ。共通教育科目には、同じ学科のメンバーのみで履修する授業、異なる学科、さらには他学部の学

生が混交で履修する授業がある。少人数で限られた学科だけの授業では、これから長い間付き合っていく学科の友達と親しくなることができ、大人数で様々な人が集まる授業では、学科や学部を超えたつながりができる。専門教科では決して顔を合わさない工学部の方や、科目等履修生の方との交流は、新鮮であった。自分とは異なる領域で学ぶ人からは、得るものが大きい。

その他、共通教育は最近の世の中を知る窓のような存在でもあると思う。新聞や雑誌を読むようにしても、自分で把握できない情報は沢山ある。また、

世の中の事象を関連付けて考えるのは、専門知識のない私たちには難しい。だから、共通教育で時事的な話題を取り上げてほしい。これは、共通教育に対する要望である。これから社会に出て行く私たちに、先生方の知識を授けていただきたい。それは、私たちのこれから学んでいく未来の知識の基盤となるだろう。

私は今年で3回生になり、共通教育の授業を履修する機会は減ってきた。しかし、これからも可能な限り授業は履修したいと思っている。いつまでも、何かを学ぼうという姿勢は大切にしたい。